徳島大学病院　放射線部

【施設紹介】

徳島大学病院の歴史は、昭和 18 年 4 月に徳島県立徳島医学専門学校が設立され、昭和 23 年 2 月には徳島医科大学附属病院として設置されました。昭和 51 年 10 月には徳島大学歯学部が設置され、平成 15 年 10 月に徳島大学医学部・歯学部附属病院となりました。平成 22 年 4 月には学部附属から大学直轄となることに伴い徳島大学病院として名称変更となり現在に至ります。

本院は、医科診療部門と歯科診療部門をもち、病床数は 692 床で、医科 21 診療科、歯科４診療科と 61 中央診療施設等から成っています。その活動を医師、歯科医師、医療技術者、看護職員、事務職員等約 1,760 人が支えています。令和 3 年度の統計によると、外来患者数は約 47 万人、入院患者数は約 20 万 7 千人に達し、手術件数も約 7,000 件と文字どおり徳島県下の中核病院として機能しています。

また、徳島大学は診療放射線技師の育成として、昭和 35 年 4 月に徳島大学医学部附診療エックス線技師学校が設置され、昭和 44 年 4 月には徳島大学医学部附属診療放射線技師学校となりました。更に昭和 62 年 10 月には徳島大学医療技術短期大学部診療放射線技術学科となり、平成 13 年 10 月には徳島大学医学部保健学科放射線技術科学専攻として設置されました。時代の流れで平成 18 年 4 月に保健学専攻博士前期課程、平成 20 年 4 月には保健学専攻博士後期課程が設置され診療放射線技師の育成が確立されました。将来の診療放射線技師の輩出を担う大学として貢献しています。

更には、先導的な地域医療の活性化（ライフイノベーション）総合特区地域医療再生事業（総合メディカルゾーン構想）として隣接の徳島県立中央病院とハード的に繋がっており、医療に一丸となって取り組んでいます。

【組織・人員管理体制】

現在、組織として放射線部には部長、副部長、講師、診療放射線技師、看護師、事務から構成され、医療技術部診療放射線技術部門から放射線部に診療放射線技師が 39 名配属されています。診療放射線技師長を中心に副診療放射線技師技師長 4 名、主任診療放射線技師 7 名、診療放射線技師 27 名で構成されています。その内、女性技師は 7 名です。部門として、一般撮影、乳房撮影、骨密度測定、歯科、透視、血管撮影、CT、MRI、核医学、放射線治療があり、診断部門では、医療情報の担当主任を、治療部門では品質管理室の担当主任を設置し、あらゆるニーズに応えられるよう努めています。また当院では敷地内に徳島大学医学部保健学科が隣接しており、毎年 40 名程の実習生を受け入れ、主任以上が臨床（準）教授として兼任し、教育、研究に携わっております。

【基本方針・基本理念】

徳島大学病院は安全で安心な高度医療を提供いたします。徳島大学病院の理念は、先端的で、かつ安全な医療を実践するとともに、人間愛に溢れた医療人を育成することです。この理念実現のために本院は、(1)人間尊重の全人的医療の実践、(2)高度先端医療の開発と推進、(3)高い倫理観を備えた医療人育成、(4)地域医療および社会への貢献という目標を掲げ、県内唯一の特定機能病院として日々の診療、研究、教育、地域貢献に励んでいます。少子高齢化が進む中、国の地域医療構想（医療政策）に沿った大学病院や地域各病院における病床機能分化と役割分担が進んでいます。この状況下、本院は、高度急性期・急性期の病院として重症患者（がん、難病、手術、３次救急、周産期医療）を対象とした低侵襲で高度な専門診療に取り組みます。今後は、さらに地域の医療ニーズに応えるために複数の診療科・部が協働した包括的、集学的医療を行うセンター系医療も充実していきます。医療イノベーションの時代を迎えています。本院も国民、県民が望む新しい医療を開発するために、全診療科にわたるゲノム医療（個別医療）や高度な臨床研究が行える人材育成と体制整備を進めます。（徳島大学病院 HP から引用）

【新人教育と若手人材育成】

当院では新規採用は 5 年期限付き有期雇用職員として採用され、一般撮影、ポータブル撮影、CT 検査等のルーチン業務を習得し、自立や責任感が持てるよう 3 ヶ月後には当直業務に従事します。2 年目以降に業務内容や業績評価を行い随時常勤職員に移行しています。研究、教育については保健教育学部が敷地内にあり、共同研究や修学の機能が備わっているので希望があれば全面的に協力します。保健教育学部以外で医学部、理工学部等の修学も行えます。特に教育プログラムなどは備えていませんが、学会参加や発表、各種専門・認定技師の資格取得などの支援ができるよう努めております。この様な状況から博士前期課程修了者は 5 名、博士後期課程修了者は 2 名おり、博士号取得者はその後教官としてご栄転されています。

【徳島大学病院の魅力】

放射線部がある中央診療棟は再開発により、平成 15 年に建設され、約 18 年が経過しております。その間、機器更新計画によりデジタル化や装置更新が行われました。部門として一般撮影・透視部門、歯科部門、血管撮影部門、CT 部門、MRI 部門、核医学部門、放射線

治療部門で構成されています。

一般撮影・透視部門には単純 X 線撮影室、透視室が各 3 室、乳房撮影室、骨密度測定室があり、骨密度を除いてはすべての装置において FPD が導入されています。近年ではポータブル装置もすべて FPD 化され、更には患者登録から画像送信まで無線による操作が実現され業務の効率化を図っています。手術場イメージには C アーム（Ziehm）や O-arm が導入されています。また歯科部門ではデンタル、パノラマ、セファロ、3 DX-CT 等の撮影を行っています。

血管撮影部門では循環器領域では Canon 社製 INFX-8000V/JC、脳血管領域では Philips 社製 Allura Xper FD20/20、躯幹部血管領域では SIEMENS 社製 SOMATOM Definition AS が設置され、非血管系 IVR 手技では冷凍手術器（GALIL MEDICAL 社製 CryoHit）を用いた凍結療法が行われています。また、2017 年より手術場にハイブリット装置 Canon 社製 INFX-8000H/NE が導入され TAVI を実施しています。

CT 部門では Canon 社製 AquilionONE が 2 台、Aquilion16 が 1 台設置され、撮影された画像データは Vincent、ZIO、AZE、Vitrea などを用いて冠動脈解析や脳血流の 4 D 処理などの画像解析を行っています。

MRI 部門では GE 社製 Signa Explorer 1.5T 、Signa MR750 3T が各 1 台、HITACHI 社製 TRILLIUM OVAL 3T が 1 台設置されています。本院は 1999 年より脳卒中ケアユニット・脳卒中センターが開設されており、脳卒中診断機器として、全国に先駆けて 3 テスラ MRI を使用し、24 時間体制で検査を行い迅速かつ的確な脳梗塞診断を行っています。

核医学部門ではサイクロトロンを有し、FDG、11C-メチオニン、18F-アミロイドの合成を行い、GE 社製 Discovery PET/CT 710 2 台で PET/CT 検査を行っています。SPECT/CT 装置は SIEMENS 社製 Symbia T16、SPECT 装置は Canon 社製 E.CAM が設置されています。甲状腺がんに対するヨード治療やゾーフィゴによる前立腺がんの骨転移の治療、またルタテラによる神経内分泌腫瘍に対する治療も行われています。

放射線治療ではリニアック装置が 3 台備わっており、ここ最近では Accuray 社製の TomoTherapy が導入され治療に貢献しております。治療計画装置についても多種多様のシステムを取り入れ、あらゆる治療に対応しています。また ^{125}I 小線源治療や ^{192}Ir 腔内照射も行なっています。

医療情報関係では病院情報センターと連携し、平成 10 年に放射線情報システムが導入され、平成 16 年には全面フィルムレス化により全面デジタル化が実現されました。それに伴い、自動受付機や Web カメラ、案内表示システムなどのシステムも導入され円滑に業務が行われています。近年では統合画像管理システム（PACS）の更新により、富士フィルムメディカル社製の SAI-Viewer や東陽テクニカ社製の ClearRead の読影支援システムが導入され読影に貢献しています。またカンファレンスや研修会を行うための環境も整備され、有効活用されています。この様な環境でスキルアップや活躍をしたいとお考えの方は是非ご連絡ください。徳島大学の魅力を堪能いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。